

IV-1 サリン中毒後健忘症者への SST (社会技能訓練) の試み

○南雲 祐美¹⁾ 本田 哲三¹⁾ 中島 恵子¹⁾ 斉藤 正洋¹⁾
 高田 有子¹⁾ 松葉 正子¹⁾ 加藤元一郎²⁾ 三村 将²⁾
 坂野 雄二³⁾ 松本 聰子³⁾

【はじめに】

社会的スキル訓練 (Social Skills Training 以下 SST) は、個人に欠けていると思われる社会的スキルを何等かの形で積極的に学習させたり、すでに備わっている社会的スキルの表出を効果的に学習する、あるいは不適切な対人的社会的行動を変容するためのさまざまなプログラムの総称である。わが国では 1980 年代から精神分裂病患者の精神生物学的脆弱性を強化するなどの目的で SST が導入されている。健忘症者の社会復帰は、認知リハビリ上重要な課題であるが、本症例は職場復帰直前の訓練として SST が必要と考えられた。健忘によって混乱している様子が観察され、1. メモ等による記憶補償、2. 情緒的混乱のコントロール、3. 自身での問題解決、等が必要と考えられた。障害に対する認識も十分でなく、自発性も乏しいため、具体的な場面でのメモの使い方も含め、対人関係での問題を処理する訓練を行い、さらに自身の障害認識等、現実検討を促すためにも SST が必要と考えられた。会社復帰を想定した、対人関係場面での記憶代償手段としての手帳 (メモづけ) を使用した課題での社会的スキル行動が定着したので報告する。

【症例】

37 歳 男性 大卒 営業マン '95. 3. 20 日地下鉄サリン事件にて受傷、意識障害、強直性けい

れんを呈して B 病院救命センターに入院。その後、意識状態は改善したが、失見当識、健忘症状残存のため、4. 21 日 B 病院言語療法科初診、認知リハビリ「(1) 記憶機能訓練、(2) 手帳使用訓練」を開始、'96. 1. 4. 当院心理療法科初診。B 病院 ST と認知リハビリ「(3) 復唱行動定着訓練」を開始、10. 1. (2), (3) がほぼ定着したため SST を導入した。

【神経心理学的検査及び精神症状 (表 1)】

SST 開始時の神経心理検査結果は順唱 7、逆唱 3、MMS 28 : WAIS-R : FIQ100 : VIQ97 : PIQ104 : WCST 達成カテゴリー数 5 : 三宅式・有関係対語 8・8・8、無関係対語 6・7・7 : BENTON 正確数 6、失見当識 (±) : 作話 (±) : 保続 (±) といった精神症状が日によって観察された。記銘力は初回検査時より改善が見られていたものの、依然前向き健忘は見られた。

強い印象のエピソードは繰り返し再生され、保持されている様子が観察され、手続き記憶等によって学習している様子も観察された。

【方法】

研究デザインは SST の効果を判定するため、単一症例研究法が多層ベースライン法を用いた。SST のロールプレイによる訓練は心理、OT のセラピストが行い、評価は OT が行った。訓練、評価の内容は患者と話し合い、現在の状態で、きる仕事や困った事柄を 4 場面 (会社、近隣、家族、病院)、2 項目 (受信、送信) で想定し、表 2 A・B に示すように会社場面では 3 課題、近隣場面では 2 課題を訓練、評価の内容として用いた。

1) 東京都リハビリテーション病院

2) 東京歯科大学市川総合病院精神神経科

3) 早稲田大学人間科学部

表1 神経心理学的検査

検査内容	10M (96.1)	1Y7M (96.10)	1Y11M (97.2)
精神病識	±	+	+
失見当識	+	±	±
作話傾向	+	±	±
状保続	+	±	±
神数唱・順一逆	6-4	7-3	6-5
経PASAT	23	19	28
心MMS	27	28	27
理WAIS-R	FIQ 94	FIQ 100	FIQ 101
検査WCST	VIQ 94・PIQ 97 達成カテゴリー 0	VIQ 97・PIQ 104 達成カテゴリー 5	VIQ 105・PIQ 96 達成カテゴリー 6
記憶三宅式	有関係対話 6・6・7 無関係対話 1・2・4	有関係対話 8・8・8 無関係対話 6・7・7	有関係対話 8・8・8 無関係対話 6・6・6
検査BENTON	正解数 5 誤謬数 7	正解数 6 誤謬数 4	正解数 6 誤謬数 6

表2A SST課題の内容(仕事の指示、指導助言、電話)

会社の場面			
訓	1.仕事の指示を受ける この書類を課長の所へ 持って行きなさい	2.指導助言を受ける 書類を渡す人が不在のとき	3.電話 支店の課長から電話が かかってきました
練	1.はい 2.メモに書き込む 3.わかりました	1.相手の都合を聞く 2.* *はどうしたらいいですか 3.メモに書き込む	1.もしもし 2.* *でございます 3.用件をメモに書き込む
用	4.復唱 5.頭を下げて出かける	4.復唱 5.礼を言う	4.復唱して確認をとる 5.挨拶をする
評	このコピーをKさんの所へ 持って行きなさい	コピーを頼まれたが、枚数が わからなくなりました	本社の部長から電話が かかってきました
価	1.はい 2.メモに書き込む 3.わかりました	1.相手の都合を聞く 2.* *はどうしたらいいですか 3.メモに書き込む	1.もしもし 2.* *でございます 3.用件をメモに書き込む
用	4.復唱 5.頭を下げて出かける	4.復唱 5.礼を言う	4.復唱して確認をとる 5.挨拶をする

表2B SST課題の内容(自分の立場を説明する、他人からの要求を断わる)

近隣の場面		
自分の立場を説明する	他人からの要求を断る	
訓	駅で切符がないことに気づいた時	近所の人から事故(サリン)のことや 日時を聞かれました
練	1.相手の都合を聞く 2.無くしてしまったことを言う 3.乗った駅名、状況を言う	1.心配に対して礼を言う 2.メモを見る 3.今日の月日をメモを見て言う
用	4.請求された金額を払う 5.礼を言い立ち去る	4.自分の現況を言う 5.挨拶をし立ち去る
評	餃子を買って頂くことを頼まれる (10個以上30個以下)	散歩中に会社の人に支社に行こうと 誘われる
価	1.餃子を下さい 2.メモを見る 3.注文する	1.誘いに対して礼を言う 2.メモを見る(出発一帰宅時刻) 3.現在の時刻を見る
用	4.金額を聞く 5.お金を払って品物を受け取る	4.行けない理由を言う 5.失礼しますと、挨拶をする

表3 SSTの流れ

教示	1、SSTをします 2、課題の確認「復職に向けて、会社での対人関係を円滑にもてるように、手帳を使って記憶面を確実にしながら行動する練習をします。」 3、状況の説明 4、メモの確認 5、手順の確認(重要点)
ロールプレイ	
フィードバックと社会的強化	1回ごとにかならず褒め、会社で役立つことを伝える。
モデリング	
ロールプレイ	同じように行動させ変更させない
般化	宿題

訓練の手順, SST の流れを表3に示す。

【結果】

各課題ともに評価得点5に達しており、会社場面(1)仕事の指示を受ける、(2)指導助言を受ける、(3)電話の3課題では6か月の訓練期間中に確実に行動することができるようになった。(4)自分の立場の説明では訓練課題では順調に学習される様子が観察されたが、評価課題の内容が実際の経験内容と異なっていたため、一般的な行動の仕方を想定しようといった内容の認識を促す必要があり、一度記憶された事柄の訂正が困難な様子が観察された。症例は月1回の出社の折り、上司などに状態を聞かれる時があり「最近訓練のおかげで、自分の記憶の状態について話せるようになった」と内省している。(5)他人からの要求を断わる、は実際の生活場面でも繰り返し母親から注意されていた事柄であったため訓練以前にも5点に達したことがあったが、訓練をはじめて2週目には安定して実行できるようになった。症例は訓練の効果について「最近自分の状況を考え行動するようになったし、予定がある時にははっきりと断われるようになった。予定外の行動をするときは母親に連絡し、了承を得てから行動している。」と内省している。(図1)

【考察】

サリン中毒後健忘症者へのリハビリテーション

としてSSTを試み、記憶代償手段である手帳を使用して、課題とされた社会的スキルが学習された。多層ベースライン法にしたがって各課題の学習成績を見ると、今回のSSTは本症例の社会的スキルの学習に効果的であったと判断することができる。学習された要因としては、反復することによって行動の学習が可能であったこと、本症例がどんな形でも会社に戻りたいといった希望があり、「会社場面等で手帳を使って対人関係を学習する」といった目的が明確であること、セラピストと共に訓練するといった教育的雰囲気や安心感を与え、何人かのセラピストが関わることで、学習意欲を高め、目的意識の強化につながったと考える。

課題4の訓練の学習経過と比べて、評価結果に上昇が見られなかったことの差は、一度記憶された事柄の訂正が困難といった本症例の記憶の特徴を示すと考える。課題設定の過程での自己観察や、記憶障害といった漠然とした問題を具体的な課題とすることで障害の認識や現実検討を促すといった認知面の強化につながったと考える。今後、日常生活で問題になる事柄や、あるいは、保護的就労が可能であれば、会社場面等での社会的スキルの般化を目的とした課題をさらに検討する。

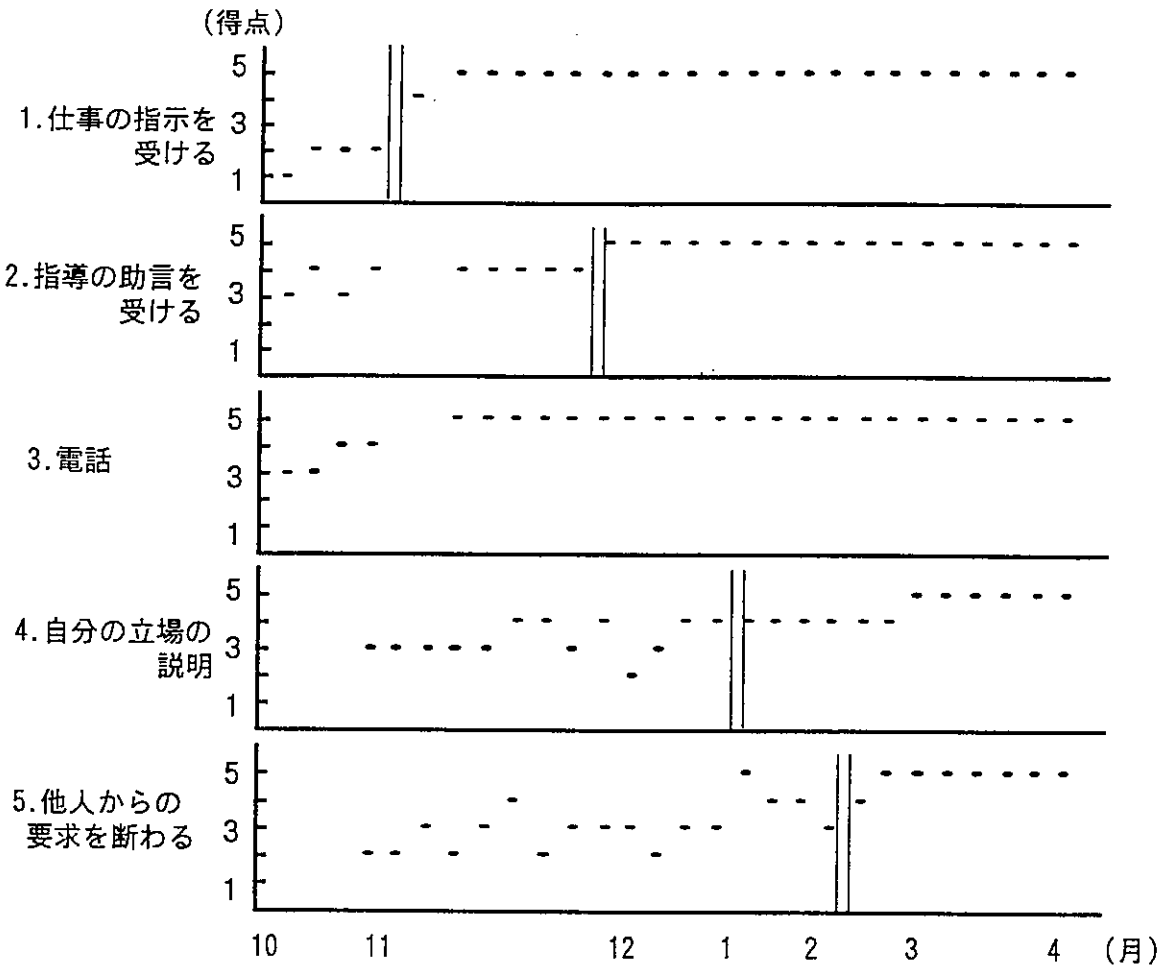


図1 SST評価結果 多層ベースライン法